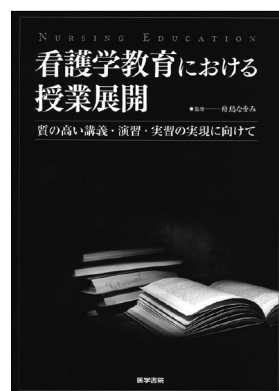


『看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて』

よき看護教育の未来を 予言し，創造する人を 生み出すために

監修：舟島なをみ／定価：3,360 円(本体 3,200 円＋税 5%)

発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



装丁は、本の顔である。そして、執筆者たちが託したメッセージを伝えるものでもある。レンブラントの絵画『女預言者アンナ』(1631 年)を思わせる本装丁の印象を頼りに、本書の紹介を試みたい。本書は、大学院生の“つぶやき”を発端にして、監修者が関わったこれまでの研究結果とともに、看護学教育と評価の空白部分、「授業展開」に焦点を絞った「授業」の実践書である。そこから見えてくるのは、長きにわたり看護学教育を研究してきた執筆者の使命感、責任感であろう。厚生労働省看護研修研究センターが幕を下ろし、教育者としての知識、技能を学ぶ機会がないまま、授業、演習、実習に携わる看護職者が増加するなかで、試行錯誤している人、卒後教育、継続教育に携わる人に向けた看護教育の質の維持向上のために、執筆者が差し伸べる手であろうと思う。

本書は、わが国の看護教育の基盤となった学習心理学、教育心理学に則っている。よって、教育目標分類学(タキシノミー)による目標設定から授業計画、評価まで、一貫して行動主義、結果主義の立場から展開されている。「授業展開」を考えるうえで重要なのは、用語の定義とそこで使われる理論の理解である。本書の前半部分は、用語の定義、理論の説明、「授業設計」の概要が記されている。著者は、授業を「相対的に独立した学習主体としての学習者の活動と教授主体としての教授

者の活動が相互に知的対決を展開する過程」と定義したうえで、学習心理学、教育心理学の考えのもとに学習と教授作用を説明している。

「授業設計」については、シラバスの具体的例を提示して必要な4つのSTEPを説明している。初めて看護教育に携わる人が、具体例を参考にしながら自分で設計ができるよう、授業設計に必要な考え方、構造、内容が一目でわかるよう、教育目標の設定、評価は著者が監訳された前著『看護学教育における講義・演習・実習の評価』(2001 年)の内容から簡潔にして記している。

また、看護教員が直面している課題を解決するためには、学生と教員を理解する必要があるとして、著者の研究結果から初学者の理解、教員の理解について詳細な説明がされている。

今日、看護教育の世界では「できる」ことを求め、「できない」寛容さを許さない、知識と方法論の隙間のない鑄型に学生を押しとどめる教育の在り方が問われている。行動主義から経験主義、結果主義からプロセス重視、知識量から能力重視へと、看護教育のパラダイムが大きな転換期にある今、改めて本書が世に出たことの意味を考えずにはいられない。この本を手にする一人ひとりの読者が「預言者アンナ」となって、よき看護教育の未来を予言し、創造する人となることを願う。